

## 平成25年全国町村長大会 来賓挨拶

全国町村長大会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

私ども自由民主党は、長い間与党を担わせていただきましたが、それがいつの間にかおごりとなって、有権者の皆様の批判を招きました。野党でありました3年半、農村でも、山村でも、誰も聞いて無くても演説をする。そういう政治の原点に戻らなければならないという深い反省を基に、今、政権を担わせていただいております。決しておごることなく、きちんと国民の皆様に「政権が替わって良かった」という実感を持っていただかなければならないと思っております。

そして衆議院も参議院も基本的には小選挙区ですから、一つの選挙区に一人の議員しかおりません。当選1回だから当選2回だから、まだまだ勉強途上だからというような言い訳が許されるとは思っておりません。どの選挙区におきましても、我が党所属議員が、町村長の皆様方のご期待にきちんと応えられますように、全力を挙げて修練をしていかなければならない、そのように思っておりますので、ご指導よろしく願いいたします。

我が日本国にとって、今一番克服せねばならない課題とは何かといえば、どうやってこの国の持続可能性を維持するか、つまり、この国が20年先、40年先、50年先、100年先、国家として存立し得るのかということに向けて、いろんな政策を集中させていかなければならないと思っております。

私の選挙区は日本で一番小さな鳥取県でございます。出身の町は、合併して八頭町という町になりましたが、元々は郡家町という人口が1万人の小さな町でございました。秋になりますと、きれいな青空に、柿の赤い色が映えて、私の原風景はいつもそこにあります。

町村で人口がどんどん減っています。少子高齢化といわれますが、少子化と高齢化は全く別の現象であります。高齢化は進むのですが、しばらくの間は子どもは減る、高齢者は増えるという段階があり、次は、若い人が減るが、高齢者の人口が維持されるという段階を経て、若い人が減る、高齢者も減るという段階、これが順次拡大をしております。若い人が東京・大都市へ集まってきますが、東京の出生率が1.09ですから、人が集まれば集まるほど、日本全体の人口が減るという、恐ろしい現象が起こっております。これをどうやって打開をしていくかということで、町村の皆様のお知恵とお力を私どもは借りていかなければなりません。

徳島県の美波町という町があります。この間ある記事を読むと若い人達、企業が多く集まっているというのを拝見いたしました。或いは島根県の海士町という町がありま

す。高校の定数が増えた、人口の1割以上が移住者であるという町であります。多くの町村において、どうやって若い人を増やすか、どうやって産業を誘致するか、そういった試みが、成功を見つつあります。私どもはそこに学んでいかなければなりません。国の施策が仮に町村に届かないとすれば、それは施策が間違っているのか、或いは使い方が間違っているのか。霞ヶ関・永田町で考えることが皆様方の心に届かない、住民の心に響かないとすれば、それは私どもの側に責任があると思っております。どうか、どこが誤っているのか、という点をご指摘いただければと思います。

最後に、被災地の負担、或いは原発立地町村の負担、そして沖縄の負担、それを全国で分かち合っていたきたいと思っております。被災地であり、そして原発立地の町村であり、そして沖縄であり、日本全体のために大きな負担を負っている地域がございます。つらい思い、苦しい思いを全国で分かち合うために、私どもは全力で努力をして参ります。どうぞ応えていただいて、この国が50年先、100年先確かな国として存立をすることができますように、町村長の皆様のお力添えを心からお願いしてご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

平成25年11月20日  
自由民主党幹事長  
石 破 茂